

Sustainability Report 2024

持続可能な未来を共に歩む



コンパスグループは持続可能な未来を創るために、
クライアントとサプライヤーをつなぎ、
協働とイノベーションを促進しています。

手を携え共に行動することで、私たちは一丸となって、
環境と社会に良い影響をもたらすための取り組みを進めています。

1 概要

- 2 2024年のハイライト
- 3 グループCEOからのメッセージ
- 4 共通の目標と説明責任に基づいた
コラボレーション
- 5 マテリアリティ評価のトピックとアクション
- 6 私たちのサステナビリティロードマップ

7 環境

- 8 バリューチェーンに与えるインパクト
- 9 私たちのプラネット プロミス
2050年までに気候ネットゼロ達成するため
- 11 食品ロス削減への挑戦
- 14 消費者行動への変容
- 15 テクノロジーの活用とデータ活用に基づく
意思決定
- 16 再利用可能なソリューション

17 ピーブル

- 18 私たちの成功を支えるシェフらの情熱
- 19 プラネットプロミスの変革者たち
- 21 従業員のポテンシャルを引き

22 コミュニティ

- 23 多様性の高いサプライヤーの支援
- 24 食品の寄付を通じて食料貧困への取り組み
- 25 コンパスグループ財団によるコミュニティ支援

26 サステナブルな調達

- 27 サプライヤーと連携し脱炭素化の推進
- 28 サプライチェーンの透明性向上
- 29 サプライチェーンにおけるパートナー
シップ
- 30 自然と生物多様性の保全
- 31 地域調達の取り組みの進展

32 ガバナンス

- 33 倫理と誠実性
- 35 事業とサプライチェーンにおける
人権尊重
- 36 持続可能な未来をパートナーと共に
- 37 サステナビリティボンドに関する報告



表紙画像: 星空の下、クライアントとのディナー
を開催するコンパスグループ・オーストラリアの
リーダーシップメンバー

2024年の ハイライト

4%



スコープ1, 2, 3の
温室効果ガス排出強度
(収益成長を考慮して正規化)の
2023年対比削減率



260万食

地域コミュニティに
寄付された食事



12億米ドル

サステナビリティボンド
調達資産のうち、2024年の
配分額



約

10,000

食品ロス量を継続的に
記録している事業拠点数



森林破壊
防止方針



を新たに改訂

† KPMG LLPは、保証基準 ISAE(UK)3000 に基づき、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書から抽出した特定のデータを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。詳細は40ページをご覧ください。



手を携え、共に行動し、 すべての人々の持続可能な未来のため

サステナビリティ・レポート2024へようこそ。

コンパスグループは、クライアントやサプライヤーとのパートナーシップからコミュニティへの貢献、従業員のエンパワーメントまで幅広い分野で成果を上げています。こうした成功を支えているのがサステナブルな思考です。当社はサステナビリティを意思決定や行動の指針としています。それは、すべてのステークホルダーにとってサステナビリティは重要なテーマだからです。

変化のための連携

当社は巨大なバリューチェーンの中心に位置するという特別な立場を活かして、有意義な変化を促進し、すべての人にとって持続可能な未来の実現に貢献しています。すべてのステークホルダーと手を携え、卓越した知見とイノベーションによって問題を解決し、日々改善に取り組むことによって、環境的、社会的目標の達成を目指しています。

プラネット・プロミス

当社はプラネット・プロミスの下、2050年までに世界全体で気候ネットゼロを達成するという目標に断固とした決意で取り組んでいます。食への情熱は、責任ある調達を促進し、食品廃棄を大幅に削減するための活動にも活かされています。プラネット・プロミスは単なる道義的な義務ではなく、当社がさらに成長するための戦略的な原動力でもあります。先見の明のある当社のシェフたちは、サステナビリティとおいしさの両方を高めるメニューの開発に取り組むことで、変化を主導しています。

食品ロスの削減

当社はバリューチェーン全体を通じて、食品廃棄の削減に全力で取り組んでいます。より良い意思決定を下すためには、正確なデータを入手することが欠かせません。

当社のシェフは食品廃棄の状況を計量・記録できるツールを用いて、食品の廃棄やカーボンフットプリントをさらに削減する機会を探っています。変化が起きているのはキッチンだけではなく。当社は今や世界的に知られるようになった食品廃棄削減のためのアクション「ストップ フード ウェスト デー」など、世界規模の活動も推進しています。

サプライヤーとのパートナーシップ

当社のスコープ3排出量の大部分は、サプライヤーから購入する食品や飲料に関するものです。当社が温室効果ガスの排出削減目標を達成するためには、サプライヤーとの緊密な連携が欠かせません。そのため、当社はサプライヤー各社のサステナブルな取り組みや地域レベルのパートナーシップも支援しています。

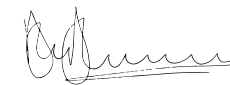
思いやりと成功を大切にせる企業文化

すばらしい人材こそ、持続可能な未来を実現するための原動力です。

当社は食に対する情熱を活かし、地域の人々やマイノリティが所有・経営するサプライヤーの支援、余剰食品の寄付、フードバンクでのボランティア活動などを通じて、地域社会に良い変化をもたらしています。コンパスグループは、地域社会の多様性を反映したインクルーシブなチームを作り、従業員が才能を発揮し、充実したキャリアを構築できる環境づくりに努めています。

ポジティブなインパクトの加速

コンパスグループは環境と社会に良い影響を与えることを目指しています。この目標を達成する方法は一つではありません。成果を上げるためには、ステークホルダーと協力し、学び合いながら、活動を改善していくことが不可欠です。サステナビリティ・レポート2024では、サステナビリティの目標達成に向けた歩みを加速させるために、当社が展開している取り組みと成果をご紹介します。ご一読いただければ幸いです。



Dominic Blakemore
グループCEO

共通の目標と 説明責任に基づく協力

コンパスグループ各社は世界中のステークホルダーと協力しながら、強固なガバナンス、明確な責任体制、データに基づく意思決定を土台に、グループが掲げるサステナビリティ目標の達成に取り組んでいます。

ステークホルダーとの連携

コンパスグループ各社の取り組みの指針となっているのは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）です。SDGsは、人と地球の平和と繁栄を実現するために、世界中の国々が賛同した国際目標です。取り組みの効果を最大化するため、当社はSDGsの中でも、当社が特に大きなインパクトを与えることのできる9つの目標を中心に据えたサステナビリティ戦略を策定しました。例えば食品廃棄の削減は、当社のように大規模な事業を世界規模で展開している食品企業にとっては不可欠の目標です。コンパスグループのサステナビリティ戦略は、2050年までに気候ネットゼロを達成するための重要なステップとして、従業員と消費者の健康とウェルビーイング、アニマルウェルフェア、二酸化炭素排出量の削減を優先事項に掲げています。

アテリアリティ評価

当社は2023年にマテリアリティ（重要課題）の評価方法を見直しました。マテリアリティ評価は、当社がESG（環境・社会・ガバナンス）の幅広いトピックについて抱える潜在的な財務リスクと機会を把握する助けとなっただけでなく、当社の行動が地球と社会に与える影響を深く理解するためにも役立ちました。

評価のプロセスには、当社が事業を展開するすべての地域から社内外のさまざまなステークホルダーが参加しました。社外のステークホルダーとは、消費者、サプライヤー、流通業者、非政府組織（NGO）、投資家、各トピックの専門家などです。評価から得られた知識は、今後コンパスグループの戦略をさらに精緻化し、最も重要性の高い活動へ注力するために活用されます。

ガバナンス

当社はさまざまなポリシー、システム、統制を通じて、強固なガバナンス体制を構築しています。説明責任を果たし、戦略のレビューと精緻化を進め、またサステナビリティ目標の達成に向けた進捗状況を測定できるよう報告の透明性を確保するために、このような体制は不可欠です。

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

気候変動に対応するためには、気候変動がコンパスグループ各社に与える影響を世界規模で把握しなければなりません。当社はTCFD提言に基づく開示を通じて、気候関連のリスクが当社に与える影響や当社の戦略的な気候変動対策に関する詳細な情報を、投資家や広範なステークホルダーに提供しています。こうした開示はまた、コンパスグループにとって最も重要な気候関連の機会も明らかにしています。

当社は、評価の対象となったすべてのリスクと機会は業界全体に関わるものであり、当社が関わるすべてのセクター、競合他社、その他の主要なステークホルダーにも適用されると考えています。今後も専門家と連携しながら分析の範囲を継続的に見直し、プロセスを進化させてまいります。

当社は移行ロードマップを導入することで、TCFD開示をさらに進化させました。当社の移行ロードマップには、サプライチェーン、事業運営（食品廃棄対策を含む）、クライアント・消費者という3つの戦略軸があります。この3つの戦略軸に沿ってサステナビリティに関する優先事項、移行活動、戦略的目標を定め、グループ初の気候移行計画を進めてまいります。

✂️ 詳細はコンパスグループPLCの2024年度年次報告書のTCFDに関するセクション（50～52ページ）をご参照ください。
<http://www.compass-group.com/en/investors/annual-report-2024>

コンパスのサステナビリティ戦略は9つのSDGsに注力



コンパスグループの各種ポリシーと行動規範については、以下をご参照ください。
www.compass-group.com/policies

マテリアリティ評価トピックとアクション

環境

気候変動への適応と緩和

グループが直接的・間接的に排出する温室効果ガス（スコープ1、2、3）の削減に取り組み、気候変動の影響に対応できるサプライチェーンを構築します。

自然と生物多様性

グループの調達活動が自然生態系に与える影響（森林の減少、水産資源の乱獲、生物多様性の損失等）を最小限に抑えるためのポリシー、基準、プログラムを策定します。

廃棄物

生産の現場からキッチンまで、バリューチェーン全体で発生する食品廃棄を削減するとともに、事業で使用するプラスチック包装の量を減らし、可能な限りサステナブルな代替品を導入します。

社会

インクルーシブな人材採用と定着

従業員が成果を上げ、尊重される環境を整備するとともに、事業拠点のある地域社会を反映した多様で、公平で、インクルーシブな職場環境を構築します。ここには、公正な労働条件と適切な賃金の提供が含まれます。

健康・安全・ウェルビーイング

グループ全体で、健康・安全・ウェルビーイングを尊重する企業文化を醸成します。

労働者の権利

事業活動の中で人権の擁護に努め、常に公正で尊厳と敬意を持って他者と接します。

食品安全

事業全体で食の安全を重視する文化を推進し、従業員の意思決定、活動、行動を導きます。

バリューチェーンで働く人々

グループ各社のサプライチェーンにおいて、倫理原則、人権、労働基準を推進します。

食材の透明性

消費者に正確な製品情報を提示し、あらゆる製品クレームに確実に対応します。

サステナブルでヘルシーな食事

グループ各社において、サステナブルで高品質な食材を使い、消費者に評価されるヘルシーなメニューを提供します。

ガバナンス

企業倫理・誠実性

企業行動規範やグループの各種ポリシー（ビジネス・インテグリティ・ポリシー等）を遵守し、倫理・誠実性（E&I）プログラムを世界各地で展開します。

贈収賄・汚職の防止

誠実さを重視する企業文化を維持し、E&Iプログラムや、秘密厳守の報告制度「スピークアップ・ウィーアーリスニング」のヘルプラインおよびウェブプラットフォームを通じて、この文化を促進します。特に、新たなリスクやインシデントの防止、検知、対応のほか、必須研修や啓発プログラムに力を入れます。

サイバーセキュリティ、プライバシー、データセキュリティ

サイバーリスクを評価し、社内のエンタープライズ・インフラ、プラットフォーム、セキュリティ・コントロールの成熟度を監視・管理します。適切な危機管理手順を整備し、AIの利用には原則ベースのルールを適用します。

サステナビリティ・ロードマップ



環境 リーダーシップ

サイバーリスクを評価し、社内のエンタープライズ・インフラ、プラットフォーム、セキュリティ・コントロールの成熟度を監視・管理します。適切な危機管理手順を整備し、AIの利用には原則ベースのルールを適用します。

当社は環境スチュワードシップの概念を取り入れ、イノベーションを推進することで、サプライチェーンの混乱、収穫量や生計の減少を引き起こす気温上昇、水不足、異常気象の影響から世界の食料システムを守る取り組みを積極的に進めています。

プラネットプロミス

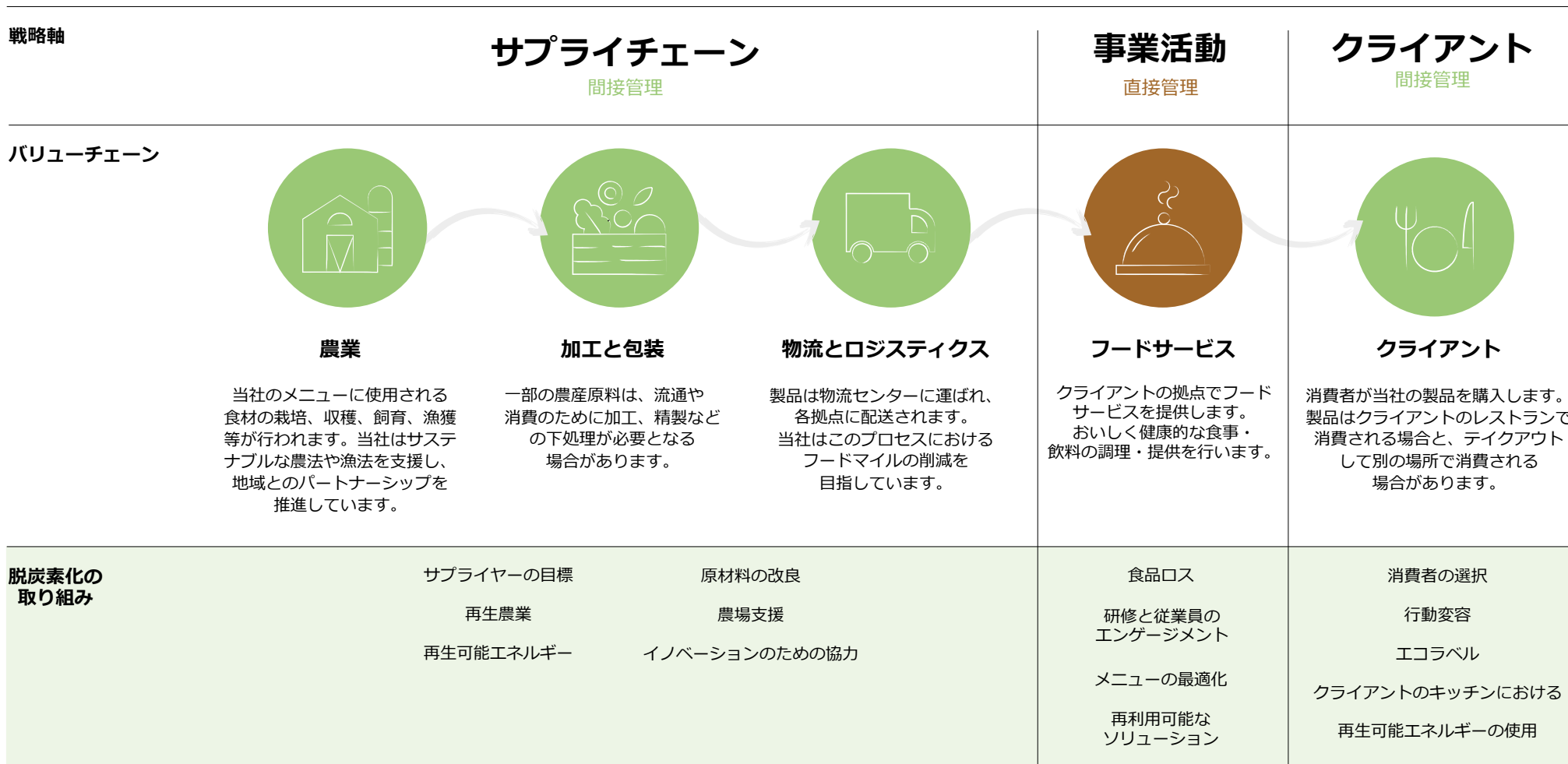
コンパスは食への情熱を原動力に、責任ある調達と食品廃棄の大幅な削減によって世界規模の変革を促進し、人々の生活を豊かにすることを目指します。料理の分野でイノベーションを起こし、協働とパートナーシップを促進すること、2050年までに世界中の事業全体で気候ネットゼロを達成する－それがコンパスグループのプラネット・プロミスです。

解決策は一つではありません。現在の活動をグループ全体で継続的に見直し、改善することで、当社の取り組みがもたらすインパクトを高め、サステナビリティ目標の達成に向けた歩みを加速させることを目指しています。



コンパスグループがバリューチェーンに与える影響

当社は世界中のクライアントや消費者に、食品関連のサービスやサポートを提供しています。下の図は、コンパスグループがバリューチェーンに与えている影響を示したものです。



プラネット・プロミス – 2050年までに気候ネットゼロを達成

4%削減

スコープ1、2、3の温室効果ガス排出強度（収益成長を考慮して正規化）の2023年比削減率

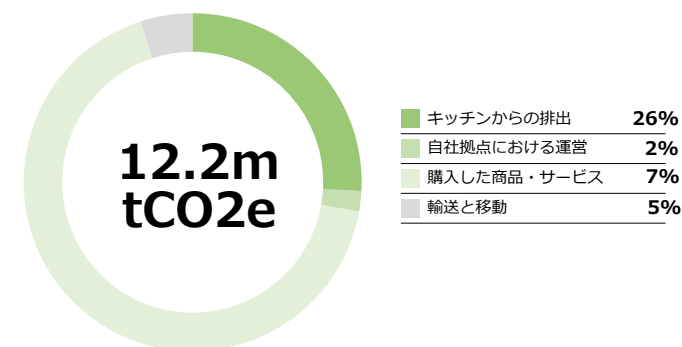


現在の進捗状況

当社の事業は多くの地域で拡大を続け、年間収益成長率は10%に達しています。その結果、スコープ1、2、3排出量の絶対値は前年比で6%増加しました。その一方で、スコープ1、2、3の温室効果ガス排出強度（収益成長を考慮して正規化）は2023年比で4%減少しました。

当社は数年間をかけて、排出量の算定方法を支出ベースのアプローチから、支出と数量を組み合わせたハイブリッドアプローチに変更しました。これにより、排出量の算定精度が上がるだけでなく、インフレの影響を受けづらくなる見込みです。また、会計年度と報告の期間を整合させることで、データの収集と報告の精度も高まりました。

2024年の総排出量



気候目標



気候ネットゼロ₁

2050年までにバリューチェーン全体で気候ネットゼロを達成



46% 削減

スコープ1、2温室効果ガス排出の絶対量を2030年までに46%削減



28% 削減

購入する食品・飲料のスコープ3温室効果ガス排出量の絶対値を2030年までに28%



SBTi認定

科学に基づく排出削減目標の中間目標（2030年期限）を達成

スコープ1とスコープ2

コンパスグループの温室効果ガス排出量全体において、スコープ1、2の排出量が占める割合はわずか2%です。買収活動の結果、スコープ1、2の排出量は前年よりも増加しました。

グループ全体のスコープ1、2の排出量の大部分は、Canteenのバンディング事業が米国で運用している冷蔵トラックによるものです。当社は排出量の削減に努めていますが、自動車分野の技術革新は電動冷蔵トラックに移行できる規模では実現していないため、削減目標はまだ達成されていません。コンパスグループは、当社の事業から直接排出される二酸化炭素を削減するため、再生可能エネルギーの導入やエネルギーの効率化に引き続き取り組んでいます。

スコープ3

スコープ3の排出量は、コンパスグループの温室効果ガス排出量全体の約98%を占めています。スコープ3は、サプライチェーンで発生する排出量です。このため当社がこの量を削減するためにできることは、詳細情報を集め、サプライヤーと協力しながらサプライチェーンにおける排出量を減らすこと以外にありません。その一環として、当社は食品業界や農業を専門とする大手炭素管理コンサルタント会社の協力を得て、スコープ3排出量の測定精度向上に取り組んでいます。2024年のスコープ3の総排出量は1196万5107[†] tCO₂eでした。

1. 当社の気候ネットゼロ目標の詳細については以下をご覧ください。

www.compass-group.com/en/sustainability/planet/climate-net-zero-2050.

[†] KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書から抽出した特定のデータを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。詳細は40ページをご覧ください。

今後の取り組み

当社はSBTiが公開した新たな森林・土地・農業（FLAG）ガイダンスへの対応を進めています。当社はSBTiの新しいFLAG目標および非FLAG目標を含む、科学的根拠に基づく目標のモニタリングとアップデートに継続的に取り組んでおり、2025年初頭までに完全に準拠した目標を設定することを目指しています。

これらの目標は、2025年に公表予定の移行計画の最終版に盛り込まれる予定です。移行計画では、さまざまな取り組みを体系化し、ガバナンスを通じて責任体制を明確化し、また財務計画を通じて積極的な戦略策定を推進することで、脱炭素化への歩みを加速させることを目指しています。

移行計画はグループの脱炭素化アプローチにも影響を与え、グループ各社が移行ロードマップに沿った戦略を独自に策定する助けとなります。詳細は、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書をご参照ください。

移行計画には大きく4つの目的があります。

- 1 気候変動のリスクと機会に対応する
- 2 ステークホルダーの脱炭素化を支援する
- 3 人を中核に据えた移行を実現する
- 4 規制への対応で変革を推進する

 移行ロードマップの詳細については、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書の気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）のセクション（50～52ページ）をご参照ください。

<https://www.compass-group.com/en/investors/annual-report-2024>

コンパスUSAで スコープ3排出量の精度が向上

コンパスUSAは、サステナビリティの向上に寄与する技術に投資し、主要なサプライヤーと協力することで、購入する原材料の排出量を把握し、データの精度を高めています。この緊密な協力関係は、コンパスが気候ネットゼロを達成する助けとなるだけでなく、サプライヤーの排出量削減にも寄与すると期待されています。

コンパスUSAはサプライヤーを炭素管理ソリューションに巻き込むことで、購入する製品が環境に与える影響に対する理解を深め、商品ごとの排出量の算定精度を高めています。その結果、コンパスUSAでは評価対象製品の排出量（加重平均値）が11%減少しました。

現在はサプライヤーごとに用意した行動計画を進めるとともに、Future Forwardプログラムを通じてサプライヤー同士が学び合う機会を創出しています。来年は、このアプローチを主要なサプライヤー全体に広げ、データの粒度を上げることで、さらなるインパクトを生み出す計画です。

0炭素管理ソリューションの
結果米国の対象製品の

排出量が11%減少
(加重平均値)

食品ロス削減 への挑戦

食品廃棄はフードサービス業界が直面している大きな環境課題です。当社は業界のグローバルリーダーとして、この分野で大きな変化を起こす力を持っています。

当社の調理チームと現場のスタッフは食品廃棄問題に全力で取り組んでおり、食品廃棄を削減するための革新的な技術を幅広い市場で活用しています。当社は、食品廃棄物の計量・記録技術を世界各地の約1万の拠点に導入するとともに、この技術をチームが最大限に活用するための研修を実施しました。正確なデータを収集することで、チームは改善の機会を見つけ、具体的な行動を起こせるようになります。

今年は新たに食品廃棄削減ポリシーも策定しました。このポリシーは食品廃棄の削減に向けた取り組みの指針となるもので、食品廃棄削減戦略の成果を最大化することを目的としています。

当社は説明責任の明確化にも取り組んでおり、昨年は食品廃棄に関する重要業績指標（KPI）を執行役員と上級管理職の年間賞与計画に連動させました。イノベーション、説明責任、チームワークを通じて、当社は食品廃棄の削減と、世界の食料システムの持続可能性向上に取り組んでいます。

オーストラリアにおける 食品ロス削減

コンパス・オーストラリアは、この3年間でリーンプスの業界最先端技術を国内の200を超える拠点に導入しました。

これにより、再利用された食品の総重量を計測できるようになりました。その結果、今年は廃棄されるはずだった4万5000kgの食品が有効活用されたことが分かりました。

リーンプスの手法と報告によると、コンパス・オーストラリアでは、2022年以降、食品廃棄物の総量が34%減少しました。

有益なデータにアクセスできるようになったことで、食品廃棄の状況をより正確に把握し、優先事項を戦略的に決定できるようになりました。



食品廃棄に対する世界規模の取り組みを主導

当社は食品廃棄問題への意識を高め、人々に行動変容を促すため、ストップ フード ウェイスト デー (SFWD) を開始。SFWDは現在、食品廃棄問題に対する世界的な運動としては最大規模のものとなっています。SFWDでは、コンパスの現場のチームやシェフが消費者向けの啓発活動やキャンペーン、メニューの立案などに参加し、実用的で創造的かつインパクトのあるアドバイスを提供することで、食品廃棄の削減に貢献しています。

2024年、当社はさまざまな活動を通じてクライアント、従業員、サプライヤー、消費者、チャリティーパートナー、そして一般の人々を動員し、変革を促進しました。

主な活動：

- コンパスUSAがニューヨークのThe One ClubでWaste Warrior Awardsを開催。これは食品関連の研究や提言活動を行う非営利団体FoodTankと共同で実施したイベントで、125人のクライアントやソートリーダーが参加。シェフのTom Colicchio氏が2024年のWaste Warrior of the Yearを受賞。
- コンパス・スウェーデンが家庭における食品廃棄の削減を支援する革新的なAIツール、Unwaste Yourselfの提供を開始。
- グローバル本社と各国本社で食品廃棄の削減をテーマにしたイベントを開催し、特別メニューを提供。
- コンパス・カナダのシェフがテレビの生放送番組に出演し、食品廃棄問題を解説。
- コンパスのシェフたちが食材の再利用レシピを掲載したデジタルクックブックの第3版を制作。

2024年に開催されたSFWDは印刷媒体を通して

1億1200万

の目に触れ、ソーシャルメディアを通じて920万人に情報を提供

Waste Warrior Awards
についてはこちらの動画
をご参照ください。

[https://
www.youtube.com/
watch?
v=R6BQBswio04](https://www.youtube.com/watch?v=R6BQBswio04)



コンパスの現場チームとシェフは
SFWDを活用して業界の啓発に
取り組んでいます

Dana Gunders氏がTED Talkで 食品ロス削減の取り組みを紹介

食品廃棄問題の専門家で、食品廃棄の削減に取り組む非営利団体 ReFED代表のDana Gunders氏が、TED Talkに登場し、コンパスの取り組みを紹介しました。

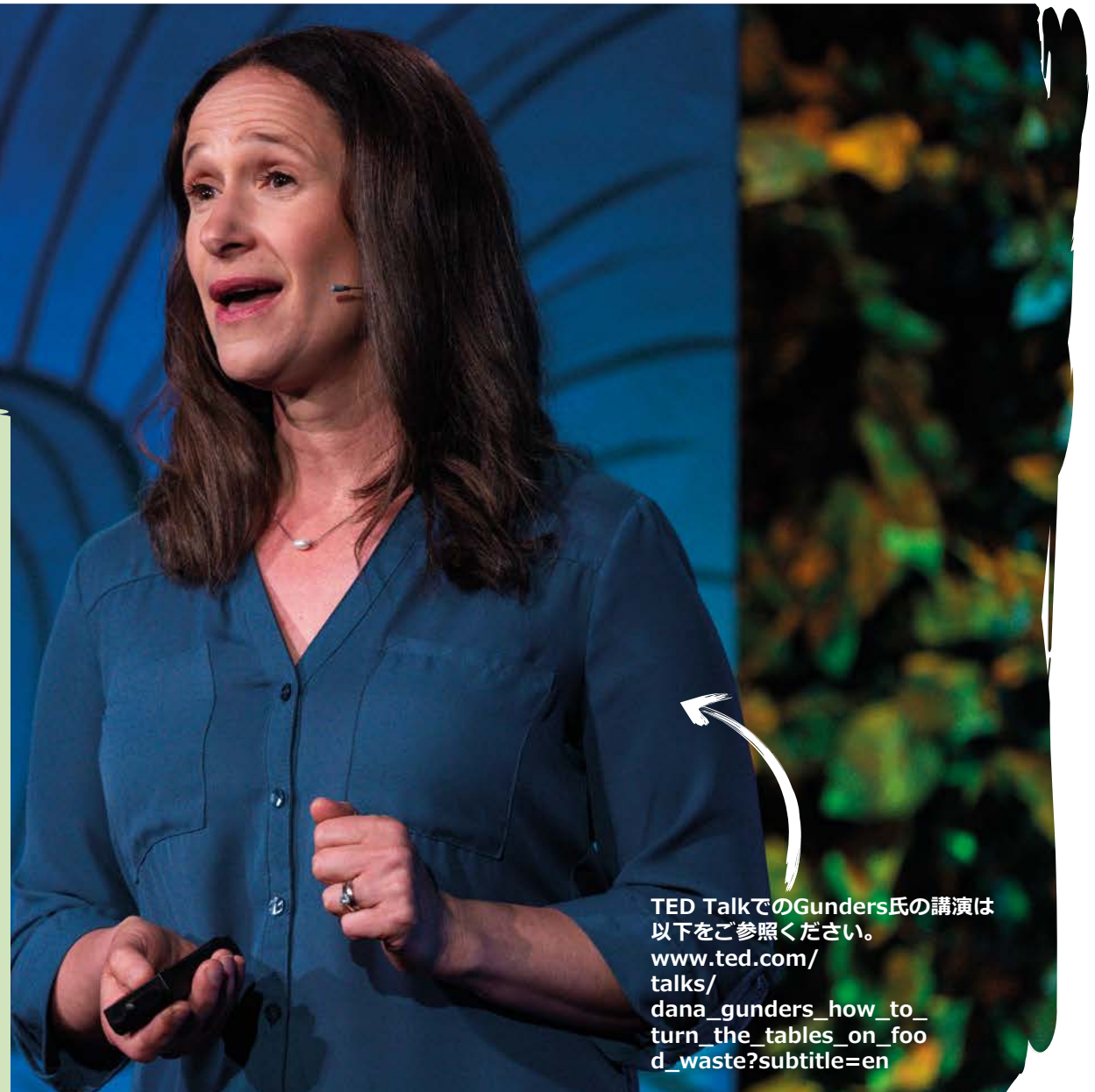
Gunders氏は、世界では毎日約10億食が廃棄されているという衝撃的な数字を挙げ、食品廃棄がいかに資源の浪費や温室効果ガスの排出につながっているかを説明しました。

同氏は食品廃棄問題に取り組んでいる企業の例としてコンパスを取り上げ、当社が食品廃棄物の計量・記録ソリューションを利用しインパクトの把握に努めると同時に、ビュッフェの容器を小さくしたり、同じメニューの盛り付け量を変えて用意したりすることで、主要拠点で最大50%の食品廃棄削減を達成したことを紹介。

この成果は、業務上での小さな工夫が環境に大きな影響を与えることを証明しています。

Gunders氏の講演は、コンパスを効果的な食品廃棄削減ソリューションの成功例として取り上げるものでした。

コンパスUSAは、革新的な方法によって食品廃棄問題への取り組みを先導する一方で、ReFEDや世界自然保護基金（WWF）が主導する米国食品廃棄物協定や太平洋岸食品廃棄コミットメントのメンバーとして、業界のワーキンググループに参加したり、リソース開発や事例研究、パイロット活動、データ収集に貢献したりしています。



TED TalkでのGunders氏の講演は以下をご参照ください。
www.ted.com/talks/dana_gunders_how_to_turn_the_tables_on_food_waste?subtitle=en

消費者の行動変容の促進

持続可能な未来に向けた変革

当社はプラネット・プロミスの一環として、気候への配慮とおいしさを兼ね備えた魅力的なメニューやレシピを開発しています。コンパスのシェフたちは卓越した調理技術と食材ごとの正確なサステナビリティデータを組み合わせることで、おいしい料理を生み出し、メニューのさらなる改善に努めています。

この取り組みをさらに進展させるため、コンパスUSAは2024年にニューヨークで開催された国際イベント Climate Week NYCにに合わせて実施されたNest Climate Campusに参加しました。イベントにはコンパスのサステナビリティ専門家も複数参加し、クライアントやゲストが気候に対する意識を具体的な行動に変える方法について議論しました。コンパスの専門家たちは、健康に配慮した選択肢を効果的に提示し、行動変容を促すことの重要性や、明確な情報をわかりやすく提示することで、消費者が気候に配慮した選択肢を自然に選べるようにすることの大切さを強調しました。

コンパスUSAの専門家が登壇した Climate Week NYCの様子は、以下をご参照ください。

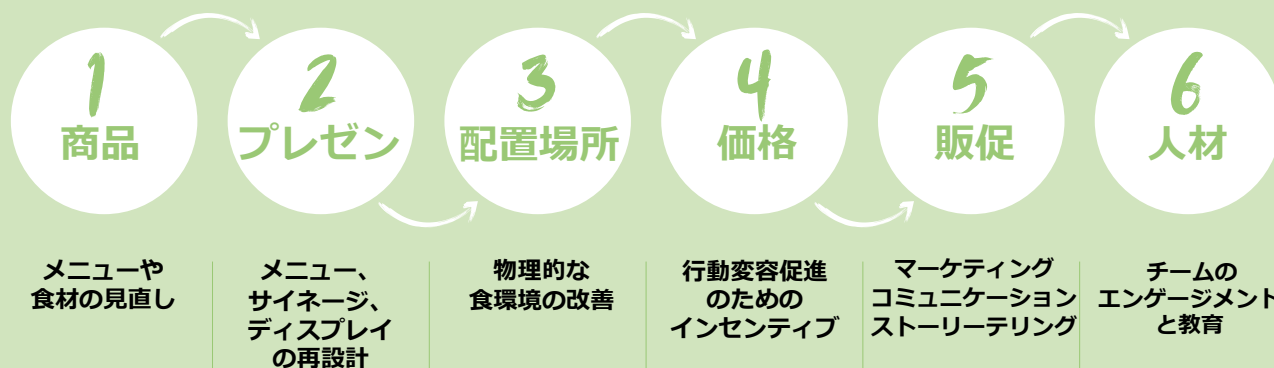
<https://www.youtube.com/watch?v=vv4b7oyhLYg>



WBCSDメンバーとの連携

コンパスグループは持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）のメンバーであり、ポジティブ消費アクション分野の共同議長として、フードサービス業界のメンバー企業向けに行動変容のためのツールキットを開発しています。こうした取り組みを通じ当社はさまざまな関係者と協力しながら、人々が持続可能な食料システムの中で健康的な食生活を送ることができるように、栄養価の高い食品の消費を提唱するとともに、食料システムの変革を推進しています。

行動変容のためのツールキットは、当社が他のWBCSDメンバーと共に開発したもので、健康的で植物性のメニューを選択しやすくするツールです。コンパスのベテランシェフや料理フォーラムと相談しながら、行動変容を促す「6つのP」を当社のレシピやメニューの設計プロセスに合わせて再編することで、人々の行動に良い影響を与えられるようになりました。



テクノロジーの活用とデータに基づく意思決定

コンパスグループ各社は、データから得られた知見を意思決定に活用して、サステナビリティ目標の達成を支援する技術ソリューションへの投資を続けています。

例えば、当社は2050年までに気候ネットゼロを達成するため、食品業界や農業を専門とする大手炭素管理コンサルタント会社と提携しました。このパートナーシップを通じて、当社は排出量の測定方法を改善し、サプライチェーンに由来するスコープ3排出量データの精度を高めることができました。コンパスグループの温室効果ガス排出量の大部分を占めているのは（サプライチェーンに由来する）スコープ3排出量であり、私たちは間接的に責任を負っています。サプライヤー各社の製品やサービスからの排出量を削減するためには、スコープ3排出量に関するデータを収集し、必要な削減策を講じることが不可欠です。

コンパスグループはクライアントがESG指標の推移を視覚的に確認できるダッシュボードも提供しています。ダッシュボードに表示されるデータは、コンパス独自の食品廃棄物計量・記録技術ウェイスト・ノット2.0などのリアルタイムツールや、気候管理プラットフォームを通じて提供されています。

コンパスグループは二酸化炭素排出量、廃棄物、エネルギー、水に関する正確なデータを報告することで、クライアントが実効性のある行動計画を立て、自社の目標を達成できるよう支援しています



再利用可能なソリューション

プラスチックの削減、再利用、再循環

使い捨ての包装は世界のゴミ問題の大きな要因となっています。

当社は、包装が食品の安全性に果たす重要な役割を認識していますが、企業には持続可能な行動をとる責任があるという考えに基づき、包装資材の再利用や再循環を最大化させて、不要なプラスチックの使用を減らすよう取り組んでいます。

サプライヤーとのパートナーシップ

2024年、コンパス・カナダはFriendlierプログラムを拡大し、Levyが飲食の提供を請け負っているホッケーアリーナで大きな成果を上げました。このアリーナでは、使い捨てカップの代わりに再利用可能なカップを導入しました。会場で飲み物を購入した来場者はFriendlierカップを受け取り、試合終了後は返却します。使用後のカップはFriendlierが洗浄・検査し、次の試合で再利用します。この試験的なプログラムの開始以降、アリーナで出るゴミの量が大幅に削減されました。この成功を受けて、Friendlierプログラムは現在、コンパス・カナダの他のクライアント拠点でも展開されています。

コンパスグループ各社は不要な包装を積極的に減らすだけでなく、再利用可能な包装ソリューションを導入し、より環境に優しい代替品を継続的に探しています。

例えばコンパス・スイスは、2018年に加入したRecircleネットワークのパートナーとして、気候に配慮した再利用可能な代替品をレストランで活用することで、使い捨て食器やカトラリーの使用を廃止しました。この取り組みによって、テイクアウトが可能になり利便性が高まっただけでなく、食品廃棄物を最小限に抑えることができます。

当社はサプライヤーと協力しながら、使い捨て製品や化石燃料由来のプラスチックに代わる持続可能な代替品へ迅速に変更するよう取り組んでいます。

例えばコンパスUK&I（英国とアイルランド）のLevy UKは、Earthshot賞を受賞したNotplaとパートナーシップを結びました。Notplaは、成長が早く炭素吸収量の多い海藻を原料とした、プラスチック包装に代わる素材を製造している企業です。Levy UKは今後3年間で、海藻由来の生分解可能な食品包装を7500万個使用することを計画しており、Notplaは生産量を短期間で大幅に増やすことが可能になりました。また、Levyが飲食の提供を請け負っているスタジアムや競馬場、アリーナ、イベント会場では、環境負荷が速やかに削減されると期待されています。

Levy UKは今後3年間で

**7500万個の
海藻由来**

の生分解可能な食品包装を使用予定

変革を支える 従業員

サステナビリティ向上のためにコンパスグループが推進している変革は、大勢の才能あふれる献身的な従業員によって支えられています。「人」こそ、当社のかげがえのない資産です。

当社は、バックグラウンドを問わずすべての人に機会を提供し、あらゆるレベルで多様性に富んだインクルーシブなチームを維持しています。

当社が誇るシェフたちは、サステナブルでおいしい食事を提供し、食品廃棄を削減し、すばらしい体験を大勢のお客様に提供することで変革を先導しています。



成功を支えるシェフの情熱

コンパスグループ・グローバル料理フォーラム

当社の事業にサステナビリティの意識を根付かせるために、大きな役割を果たしているのがグローバル料理フォーラムです。このフォーラムは経験豊富なシェフたちが定期的に集まり、経験や知識を共有する場となっています。

グローバル料理フォーラムは、食材の有効活用や廃棄される食品のアップサイクルなど、グループ全体で食品廃棄を最小限に抑えたり防ぐことができる調理法を編みだすことで、コンパスが気候ネットゼロを達成する上で重要な役割を担っています。

サステナビリティ強化に向けた最近の取り組み：

- サステナビリティをテーマにしたウェビナー2つ（「食材の旅」「スマートな調達、地域での調達」）を開催し、料理専門家が日々の仕事を通じて、サステナビリティの向上に貢献できるよう支援
- グローバル料理フォーラムの会合では毎回「サステナビリティ・モーメント」を実施し、料理コミュニティ全体で安全とサステナビリティを推進する重要性を強調
- グローバル料理フォーラムの月次セッションで各市場のベストプラクティスを共有
- ルール・オブ・ファイブ（食材を有効に活用し、廃棄を削減するための枠組み）をさらに多くの市場で導入し、より広範な普及とインパクトを確保
- 上位の調理職の職務記述書を見直して、サステナビリティを主要な責務に組み込み、リーダーシップの役割とサステナビリティ目標を統合
- 食品廃棄の削減をテーマにしたグローバルな教育ビデオを制作し、各国の調理チームのサステナビリティ教育を強化



シェフ感謝ウィーク

コンパスが主催するシェフ感謝ウィークは、才能あふれるシェフや調理チームの素晴らしい仕事を称えるために2013年に始まりました。コンパスの優秀なシェフや料理専門家は、地元産食材の活用、食品廃棄の削減、余剰食品の再分配など、幅広い分野で素晴らしい成果を上げています。

今年は「Food First, Passion Always（食品を大切に、常に情熱を）」をテーマに、シェフの仕事はおいしい料理を作り、提供することだけではないというメッセージを発信しました。そこでは、コンパスの調理チームが創造性にあふれたシェフであるだけでなく、戦略的なビジネスリーダーでもあり、新たな機会を生み出し変化を加速させている姿が示されました。

Chef
APPRECIATION
week

シェフ感謝ウィークの様子はこちらの動画をご参照ください。
www.compass-group.com/chef-appreciation-week-2024

プラネット・プロミス の変革者たち

人々を鼓舞し、変化を促進する魅力的なリーダー

サステナビリティは当社の事業に組み込まれ、当社の成功にとって欠かせないものです。そのため、社内では常にサステナビリティを改善する取り組みが進められており、具体的な変化を生み、グループ全体に良い影響を与えた従業員を称える仕組みも用意されています。

こうした従業員は「プラネット・プロミスの変革者」と呼ばれ、功績を称えられます。その目的は、従業員の功績を認め、ねぎらうことだけではありません。他の従業員を刺激し、背中を押すことで、組織全体でサステナビリティをさらに発展させるためでもあります。

各地域の経営陣も、プラネット・プロミスの変革者たちの取り組みに注目しています。プラネット・プロミスの変革者たちは、サステナビリティ目標の達成に向けた取り組みの最前線に立って、食品廃棄の削減を先導し、革新的でありながらおいしく地球に優しいメニューを開発し、またサプライヤーと協力し、消費者の行動に影響を与えています。

変革者たちの取り組みの進捗状況やグループ全体で起きている良い変化は、主要なソーシャルメディアプラットフォームでも報告しています。



Chef Veerle
Belgium



Catherine
New Zealand



Chef David
UK & Ireland



Dorothee
France



Josh
North America



Yesenia
North America



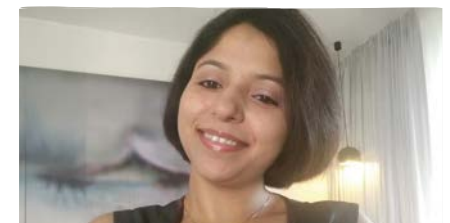
Jenna
North America



Robert
North America



Sayaka
Japan



Shataskshi
India



世界のサステナビリティリーダーたちが変革に向けて協働

2024年12月、コンパスはニューヨークで第1回グローバル・サステナビリティ・フォーラムを開催しました。このフォーラムには当社の世界中の事業拠点からサステナビリティ分野のリーダーが集い、交流し、戦略や知識を共有しました。

フォーラムでは、食品廃棄対策、製品・包装のイノベーション、データとインサイトを活用してクライアントの期待に応える方法など、さまざまな分野のベストプラクティスが紹介され、サステナビリティリーダーたちに刺激を与えました。

フォーラムにはクライアントも参加し、自社のサステナビリティ目標の達成をコンパスがどのように支援しているかを従業員に直接語りました。

食品業界が抱える課題はますます複雑化していますが、当社は引き続き一丸となって協働し、継続的な改善に取り組みます。協力し、互いの強みを活かすことで、クライアント、従業員、そして投資家に対し、今後も大きな価値を提供してまいります。

従業員の可能性を引き出す インクルーシブな職場

コンパスグループは、クライアント、地域社会、消費者を反映した多様性の高い組織作り情熱を注いでおり、これにより市場のニーズに応え、イノベーションを促進し、包摂性を育む力が強化できると確信しています。

インクルーシブな環境は、これまで障壁となってきたもの、例えばジェンダーや民族、社会経済的地位、障がいの有無といった壁を取り払う助けとなります。グローバルレベル、地域レベルの多様な取り組みを通じて、当社は少数派に属する従業員がキャリアを築き、未来のリーダーとして成長する機会を提供しています。

インクルーシブな制服：マタニティ制服の導入

コンパスUK&Iでは今年、Women in Foodネットワークが妊娠中の従業員のためのマタニティ制服を開発しました。この活動は、妊娠中のシェフやソフトファシリティマネジメント（給食、配食、清掃等）の担当者だけでなく、出産後に職場復帰する女性従業員も支援するもので、コンパスUK&Iが従業員が多様なニーズに取り組んでいることを示しています。インクルーシブな制服の導入は、すべてのチームメンバーが力を発揮し、成長できる環境を作るための一つの方法にすぎません。

ウェルビーイング

コンパス・インドは2024年5月に従業員支援プログラム（EAP）を導入しました。このプログラムはウェブベースの従業員支援プラットフォーム「1to1help.net」を活用したもので、従業員は秘密厳守でカウンセリングや各種資源を利用できます。また、毎月開催されるウェルネス・ウェビナーでは不安や睡眠といった重要なテーマを取り上げ、国際ヨガデーなどに合わせて開催される特別イベントでは、心身の健康の促進に取り組んでいます。

世界メンタルヘルスデーでは、ウェビナーやキャンペーンを通じて「職場のメンタルヘルス」に注目し、この問題に対する意識を喚起するとともに、従業員同士の支え合いを奨励しました。一連の取り組みは、従業員のウェルビーイングを重視し、協力的な職場を作るというコンパス・インドの決意を示しています。

多様性を促進するグローバルな取り組み

当社はジェンダー平等を推進するだけでなく、バックグラウンドを問わず、あらゆる人々を支援するインクルーシブな職場づくりにも取り組んでいます。その一環として、さまざまな地域で現地の事情に合わせたプログラムを展開しています。

例えば米国では、The Navigate Foundationの最高経営責任者（CEO）兼共同創設者のシェフ、Simone Byron氏と協力しています。Byron氏は、女性が設立し、マイノリティが所有・経営する非営利団体のリーダーであり、低所得層出身の有望な全国の若者に、ホスピタリティ業界や料理業界でキャリアを積む機会を提供しています。The Navigate Foundationのインターンシッププログラムでは、重要な研修やメンターシップに参加する機会や業界認定資格を取る機会を提供しています。

昨年はコンパスUSAの支援により、187人のインターンが研修に参加し、メンターから指導を受けました。このうち24人が正社員として採用されました。こうした協働を通じて、コンパスUSAは地域社会を変革し、業界に大きな影響を与えています。

多様なリーダーの育成を支援

コンパスの重要な目標の一つは、すべてのレベルのリーダーシップ層で多様性を確保することです。今年は多様な人材を育成する取り組みの一環として、グローバル・ジェンダー・リーダーシップ・プログラムを初めて導入しました。さまざまな育成活動を通じて、チームからリーダー候補者を見つけ、上級職への明確なキャリアパスを提供します。またメンター制度や経営陣に直接アクセスする機会を設けることで、社内の障壁を積極的に取り払うとともに、生涯にわたってキャリアを伸ばす機会をバックグラウンドを問わずすべての従業員へ積極的に提供しています。

当社のサステナビリティ戦略にとって、多様な人材の育成は欠かせません。インクルーシブな環境を育むことで、従業員の潜在能力を最大限に引き出し、組織の強靭性を高めています。これまでの進歩を誇りに思いつつ、長期的な視点をもって、今後もさらなる努力と革新を続けてまいります。



地域社会との連携

コンパスグループは、地域社会の多様性を反映したインクルーシブなチームを作り、従業員が才能を発揮し、充実したキャリアを構築できる環境づくりに努めています。

グループ各社とその従業員は、支援を最も必要としている場所に食品を寄付し、慈善活動のための資金を集め、可能な限り地元の食材を購入するとともに、良い変化を起こすための活動を続けている組織を支援しています。

地域の人々やプロジェクトと協力し、そのニーズを理解し、ニーズの充足を支援することで、グループ各社は地域社会の一員としての役割を果たしています。



多様性豊かなサプライヤーへの機会提供

多様性豊かなサプライヤーへの
2024年の支援総額

約10億ドル

コンパスグループは大手フードサービス企業であり、調達規模が大きいこと、当社の選択は多様性の高い企業、地元の企業、社会的企業、中小企業に分類されるサプライヤーに重要な影響を与える可能性があります。そのため、当社はクライアントやサプライヤー、その他関係者の方々と継続的に連携することで、サプライヤー基盤のダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DE&I）を強化し、地域社会により良いサービスを提供できるよう努めています。

2024年に当社は、各チームがDE&Iを体現するサプライヤーへの支援を改善するための枠組みを構築しました。この枠組みは、対象となるサプライヤーを特定し、成長の機会を創造し、ベストプラクティスを定期的に共有するためのガイダンスを提供します。特に力を入れている分野の一つがデータです。当社はデータを収集し、サプライチェーンのDE&Iを強化する新たな方法を模索しています。

サプライチェーンの多様性を高めるため、当社は専門機関とも連携し、アプローチの強化に取り組んでいます。こうした機関の例として、WEConnect International（女性が所有・経営する企業と購買担当者をつなぐグローバルネットワーク）、Minority Supplier Development UK（少数民族が経営する企業と、サプライチェーンの多様性と包摂性を高めたいと考えているグローバル企業をつなぐ団体）などがあります。

Foodbuy USAが展開するサプライヤーの多様性向上プログラム

このプログラムの目的は、多様性の高いサプライヤーの事業成長を支援することです。毎年、女性が経営する企業や多様性の高い企業10社にリソースや教育の機会を提供しています。選ばれたサプライヤーは9か月間のプログラムに参加し、専任のFoodbuyメンターが連絡窓口となります。このメンター制度は、サプライヤー基盤のDE&I向上に役立っています。

FoodBuyのプログラムが支援した企業の例：

- マイノリティが所有・経営するトルティーヤ製造会社：さまざまなリソースやショートカット、戦略を最大限活用して複雑なビジネスを管理する上で、メンター制度が役立ち、また同プログラムによって貴重なつながりも構築できました。
- マイノリティが所有・経営する青果会社：プログラムに参加することで、マイノリティの企業が通常なら手に入れにくい競争優位性を獲得できました。当社はサプライヤーメンター制度を米国以外にも拡大し、主要市場間で連携しながら、一貫性をもってサプライヤーの多様性向上を進めています。

UK&IのPitch Social

Pitch Socialは毎年行われるプログラムで、ここでは社会・環境課題に取り組んでいる新たな社会的企業、Bコーポレーション、およびマイノリティ所有・経営のサプライヤーを特定し、パートナーシップを構築しています。

サプライヤーは、ビジネスリーダー、経営者、クライアントからなる審査パネルに対し、自社の事業、製品、パーパスについてプレゼンテーションを行います。サプライヤーは、それぞれの事業領域で自社がいかに有意義な活動を展開しているかをアピールします。選ばれた場合には、正式なサプライヤーとして登録されるチャンスが与えられます。3か月から6か月間にわたって、メンター制度に参加することも可能です。

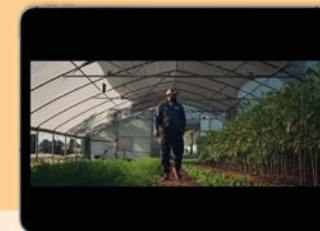
米国のダイバーシティ・ファーマー・プログラム

コンパスUSAは長年、米国の小・中規模の家族経営農場を支援してきました。米国では有色人種の農家が少ないという問題に取り組むために、同社はダイバーシティ・ファーマー・プログラムを立ち上げて、この4年間にわたり取り組みを拡大してきました。

参加農家は伝統的な知識と持続可能な農法（カバークロップ、不耕起栽培、化学肥料の削減）を組み合わせることで、土壌の健康と生産性を維持し、将来の世代に引き継ぐことを目指します。

このプログラムは地域の小規模農家と連携し、持続可能な農業と事業の成長を支援することで、有色人種の農家に有意義な機会を提供し、より公平な農業コミュニティの構築に貢献しています。

コンパスUSAのダイバーシティ・ファーマー・プログラムについてはこちらの動画をご確認ください。
www.youtube.com/watch?v=sNx70KZLAlk



食料貧困と闘うための 寄付プログラム

コンパスグループ各社は、フードリカバリー（食べられるにも関わらず流通から外れてしまった食品を活用する活動）に取り組む組織と協力し、食料貧困層に栄養のある食べ物を届ける活動を展開しています。また、当社事業でフードリカバリーの取り組みを促進・支援するためのツールも開発しました。

革新的なパートナーシップと、地域社会に栄養のある食品を届けるという断固としたコミットメントを通じて、コンパスグループのフードリカバリー活動は大きなインパクトを生み、食料を必要としている人々へ重要な支援を提供しています。この1年間にコンパスグループ各社が地域社会に寄付した食事は、世界全体で260万食に達しました[†]。

パートナーシップを通じて大きなインパクトを創出

コンパスUSAは、全国でフードレスキュー技術ソリューションを提供しているCareitなどと新たなパートナーシップを構築したほか、長年のパートナーであるFeeding America、Chefs to End Hunger、Food Rescue US、Goodr、Food Recovery Network、Food Rescue Hero、City Harvestなどとも引き続き協力しました。

コンパスUK&Iは、寄付パートナーのOlio、FareShare、Too Good To Goのほか、FoodCycleなど地元の慈善団体を通じて、寄付プログラムを引き続き展開しました。コンパス各社では今後も食品廃棄物の削減に取り組みつつ、食品の寄付を通じ地域社会に貢献してまいります。

260万食

を地域のコミュニティに寄付[†]

[†] KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書から抽出した特定のデータを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。詳細は40ページをご覧ください。

食品の寄付を通じて 地域社会に貢献

フードリカバリーによる洪水被災者の支援

2024年3月、オーストラリアのカルグーリーでは大規模な洪水によって道路が閉鎖され、一帯のコミュニティへのアクセスや物資の配送が困難になりました。その結果コンパス・オーストラリアでは、ESSチームが手配していた生鮮食品や牛乳、各種食料品を目的地に配送できなくなりました。

現地チームは、こうした食料品を無駄にしないため、カルグーリーのフードバンクに寄付することを直ちに決定しました。この素早い決断により、洪水の影響を受けた家庭だけでなく、地域全体で食料不安を抱えていたオーストラリア西部の他の住民にも、必要な物資を届けることができました。

コンパス・オーストラリアは
合計で**7,775kg相当の食品**を寄付し、
困窮者のために約**1万4000食**を確保

余剰食品の安全な再分配

コンパス・インドは、Robin Hood Armyと協力して地域社会に食事を提供することにより、地域住民の栄養状況の改善に取り組んでいます。毎週、Robin Hood Armyのボランティアがコンパス・インドの拠点や集中調理センター（CPU）から余剰食品を集め、支援を必要とする人々に届けています。コンパス・インドとRobin Hood Armyは力を合わせて、飢餓を緩和するとともに、すべての食事が安全に、かつ責任をもって確実に分配されるよう取り組んでいます。

Robin Hood Armyは標準作業手順（SOP）に沿って、食品が細心の注意を払って取り扱われているかを確認しながら、困難な状況にある人々へ食品を安全、効率的、効果的に提供しています。

過去1年間に **3万2000食** 以上をインドの3都市に寄付



コンパスグループ財団による コミュニティの支援



コンパスグループ財団は、イングランドおよびウェールズのチャリティ委員会より登録された独立慈善団体です。コンパスグループの従業員は、時間と専門知識を提供して財団の活動を支援しています。財団は、フードサービス業界での研修やキャリア開発を通じて、不利な立場にある人々の雇用機会を拡大する取り組みに資金を提供するとともに、食品業界の小規模なサプライヤーを支援しています。

2022年以来、財団はコンパスグループが事業を展開する国々において、グループの優先事項と一致する取り組みに約200万ドルの助成金を提供しました。

2024年のハイライト



21 助成案件

を7カ国において助成



3,500人超

直接・間接的な受益者数



900時間超

コンパスグループ従業員の
ボランティア活動時間

インクルーシブな雇用機会の創出

コンパスグループは、困難な状況にある女性、有色人種、障がい者、難民、人身取引の被害者など、さまざまな人々に職業訓練や雇用適性を高める機会を提供する団体とパートナーシップを結んでいます。

例えば、米国ではCakeable、Hot Bread Kitchen、Emma's Torchなど、不利な立場にある人々に食品業界で働く機会を提供する団体と提携しています。フランスでは、Tournesolの難民向けキッチンアシスタント研修プログラムを支援し、職業訓練やインターンシップの機会を提供しました。インドでは、UnnatiとSai Swayamを継続的に支援し、地域の若者や聴覚・言語障がいを持つ人々に職業訓練を受ける機会を提供しています。

こうした取り組みは、社会から疎外された人々に雇用機会を提供するだけでなく、人々が直面している偏見に挑み、差別を減らし、社会の認識を変え、雇用の障壁を取り払う上で重要な役割を果たしています。

現地の中小企業サプライヤーの支援

コンパスグループ財団は、地域のサプライヤーの事業拡大を支援するとともに、サプライチェーンの持続可能性と多様性の向上にも取り組んでいます。

例えば米国ボストンのCommonwealth Kitchenは、農家と協力してフィールドピーなどのカバークロップ（被覆作物）から作られる付加価値製品の市場創出に取り組んでいます。この活動は農家に追加収入をもたらすだけでなく、食料廃棄物の削減にも寄与しています。

英国のCarbon Literacy Trustは、小規模な食品企業向けに温室効果ガスに関する研修を無料で提供し、各社が社会的責任を果たし、環境負荷を低減しつつ、サステナビリティに関する取り組みを強化し、事業機会を拡大できるよう支援しています。



詳細はこちらをご参照ください。
www.compassgroupfoundation.org



サステナブルな調達

コンパスグループ各社は、サプライチェーンのパートナーと連携しながら、地球や地域社会に良い影響を与えることを目指しています。そのためには、環境負荷の軽減や責任ある調達など、サステナビリティの主要なテーマを扱った研修やワークショップが欠かせません。コンパスグループの調達チームは、高リスクな製品カテゴリーに関する詳細な研修（特にトレーサビリティ、サステナビリティ関連の認証制度、人権の遵守）を受けています。

コンパスグループのグローバルなサプライチェーンリスク管理フレームワークではグループ各社のサプライチェーンが抱える主要なリスクを特定し、緩和するための最低調達基準を定めています。

コンパスグループ各社はまた、地元産の商品の調達、インクルーシブで多様なサプライヤー基盤の構築、再生農業の支援、人権の保護、倫理的な取引の促進、アニマルウェルフェアの支援を目指すことで、サステナビリティに関する取り組みの影響と効果の最大化にも努めています。



サプライヤーと 共に脱炭素化を推進

脱炭素化を成功させるためには、サステナビリティを調達チームの日常業務に組み込まなければなりません。サステナビリティ目標を達成するためには、サプライチェーン全体と強固なパートナーシップを結び、共に行動することが不可欠です。当社は、サプライヤーやパートナーとの直接的な対話や、グループ各社が毎年開催するサプライヤー会合などの場を通じて、協力し責任を共有するネットワークの促進を目指しています。

Foodbuy USAのFuture Forwardミーティング

この2年間、コンパスUSAの調達企業であるFoodbuyはFuture Forwardミーティングを開催し、スコープ3排出量の削減方法について議論してきました。同社は年間30億ドル以上を支出する25の大手サプライヤーと連携し、農場レベルでの対策、包装のイノベーション、流通効率の向上といった排出量削減戦略について意見を交換しました。

ネットゼロ・サプライヤー・ハンドブック

コンパスグループは現在、ネットゼロ・サプライヤー・ハンドブックの発行準備を進めています。このハンドブックは、気候ネットゼロに向けた取り組みを始めるために必要なツールやガイダンスを、調達チームやサプライヤーに提供するものです。

特にスコープ3排出量の削減に重点を置いており、気候変動対策の推進でサプライヤーの参画を促す上で基盤となるものです。コンパスUK&Iは現在、すべてのサプライヤーに対して、契約開始日から12か月以内に科学に基づく目標（SBT）を設定するよう義務付けています。

データの重要性

サプライヤーの進捗状況を把握し、気候ネットゼロ目標を達成するための変化を推進する上で、データの収集は不可欠です。当社が責任ある調達を実現し、サステナビリティ目標を達成し、正確なデータを報告するためには、調達プロセスにおいて詳細な製品情報を提供することが欠かせません。



コンパスグループのスコープ3排出量の大部分は、グループ各社が購入する食品や飲料に由来しています。

つまり、当社が排出目標を達成するためには、サプライヤーとの緊密な連携が不可欠です。

サプライチェーンの透明性向上

サプライチェーンリスク管理戦略

コンパスグループはサプライチェーンリスク管理（SCRM）戦略を強化しました。SCRM戦略の目的は、サプライチェーンの透明性を高め、リスクを軽減することです。当社はSCRM戦略の一環として、調達チーム向けにサプライヤーリスク管理に関する研修を実施し、サプライヤーの選定時や取引開始時、および継続的な管理でチームが詳細な評価を行えるよう支援しています。

SCRMのフレームワークにはSEDEXのようなツールも組み込まれており、これは自己評価アンケート（SAQ）やSMETA監査（Sedex Members Ethical Trade Audit）を通じて、サプライヤーのリスク管理状況を把握するものです。今年はSEDEXの利用範囲を拡大してコンパスグループの事業全体に組み込み、労働基準、安全衛生、環境、ビジネス倫理などの分野で継続的な改善を推進するとともに、各サプライヤーのリスク管理状況の可視性と透明性の向上に努めました。

第三者倫理審査プロセス

当社はSCRM戦略の柱として「第三者倫理審査プロセス（TPIDD）」を導入しました。TPIDDは、コンパスグループ各社がバリューチェーンに潜むリスクを把握し、管理できるよう支援するもので、人権侵害、環境破壊、贈収賄、汚職など倫理面の実践やリスクについて、新規および既存のサプライヤーを適切に評価できるようにします。教育、啓発、技術、パートナーシップ、研修にも引き続き投資し、デューデリジェンスのプロセスを強化しています。

チームの教育

水産物などの高リスクなカテゴリーに関する研修も、倫理面のパフォーマンスに寄与しました。例えばサステナビリティ認証プログラムを導入し、調達チーム向けに環境リスクの軽減方法に関する研修を実施しました。人権に関しては、国際労働機関（ILO）条約を遵守することの重要性をチームに教育するとともに、サプライチェーン内での社会福祉の状況についてモニタリングを行って対応しました。

研修ではトレーサビリティの重要性にも着目し、チームが漁獲から消費までの水産バリューチェーンを理解できるよう支援しました。こうした知識は透明性を高め、製品の信頼性を維持し、コンパスグループ各社のサプライチェーンの保護だけでなく、持続可能な方法で生産され倫理的に調達された水産物も推進します。

サプライヤー行動規範

SCRM戦略のもう一つの柱である、グローバルサプライヤー行動規範（SCOC）は、すべてのサプライヤーに求められる原則と行動を定めたものです。SCOCは毎年サプライヤーと共有され、サプライヤーは契約上の義務として、コンパスの倫理・業務基準を遵守します。SCOCの内容は、第三者監査やサプライヤーレビューなどを通じて継続的にモニタリング・改善されています。

当社はデューデリジェンスの一環として、リスクを特定し、優先順位を付ける「リスク登録システム」を導入し、調達チームが水産物やココアといった高リスクのカテゴリーに重点的に対応できるよう支援しています。調達チームは、サステナビリティと倫理的調達のベストプラクティスを取り入れ、リスクを適切に管理するための研修を受けています。



サプライヤー行動規範の詳細はこちらをご参照ください。
www.compass-group.com/policies/scoc

サプライチェーンとのパートナーシップ

変革のためのパートナーシップ

当社は、サプライチェーンに関する取り組みの一環として、Earthworm FoundationやSlave-Free Allianceといった外部組織とも緊密に連携し、サプライチェーン全体の社会的・環境的リスクを管理しています。SEDEXやEarthworm Foundationとの協力関係は、倫理的調達改善を進める上で重要な役割を果たしてきました。

例えばコンパスのココアプロジェクトでは、サプライチェーンに関するリスク、特にフランスや英国への供給ルートに係る森林破壊や人権問題のマッピングに重点を置いています。また、Slave-Free Allianceと協力してサプライチェーンの可視性を高め、社会的・環境的リスクを管理しています。

この他、世界水産物持続可能性イニシアチブとパートナーシップを結び、Compassion in World Farmingとも密接に連携しています。サプライチェーンの強靱性を高めるため、現地のサプライヤー支援プログラムにも積極的に関わっています。

アニマルウェルフェアの向上支援

2024年にはアニマルウェルフェア戦略を刷新し、グループ各社に展開しました。新しい戦略は主に5つの分野（社内研修、パートナーシップとアドボカシー、サプライチェーンとの連携、透明性とコミュニケーション、植物中心のメニュー）に重点を置いています。

大きな変化を起こすためには、バリューチェーン全体を巻き込んだ協力が不可欠です。そのため当社は、世界各地のサプライヤーやパートナー、業界団体、そしてCompassion in World Farming、Global Food Partners、Humane Society Internationalといった主要なアニマルウェルフェア団体と連携し、アニマルウェルフェアの基準やアプローチの調査・開発・改善に継続的に取り組んでいます。

当社は世界動物福祉連合（GCAW）の創設メンバーとして、他の主要な国際食品会社と連携しながら、変化を阻害する制度的な障壁の解消、ベストプラクティスの共有、アニマルウェルフェア問題に関する進展の加速にも取り組んでいます。社内研修も継続的に実施し、グループ各社が大きな変化を起こし、アニマルウェルフェアの知識をサプライヤーと共有できるよう支援しています。

5つの重点分野



パートナーシップとアドボカシー



サプライチェーンとの連携



透明性とコミュニケーション



植物中心のメニュー



社内研修

自然と生物多様性の保全

コンパスは自然と生物多様性の保全に取り組んでおり、グループ各社ではEUの新しい森林破壊防止規則（EUDR）への準拠を適宜進めています。EUDRは、牛肉、ココア、コーヒー、パーム油、ゴム、大豆、木材、およびその派生製品を扱う企業に対し、森林の破壊・劣化を引き起こすような方法や現地の環境・社会法規に違反して生産された製品を、サプライチェーンに持ち込まないよう義務付けています。

2024年、コンパスはEUDRに準拠した森林破壊防止ポリシーを策定しました。新方針では、森林破壊を引き起こさないサプライチェーンを2025年までに確立し、2025年末までに北米と英国の事業で「森林破壊ゼロ」を達成することを目標に掲げています。森林破壊防止ポリシーについては以下をご覧ください。

www.compass-group.com/policies

再生農業

当社は生物多様性の保護と持続可能な土地管理を強化するために、再生農業を支援しています。この活動はまだ初期の段階にありますが、サプライヤーなどの外部パートナーと協力し、持続可能な農法を促進し、地域レベルで生物多様性の向上に取り組んでいます。

再生農業は土壌の健康を回復し、二酸化炭素を吸収するため、強力な気候変動対策となります。例えば、コンパス・フランスは以前はレンズ豆を輸入していましたが、現在は農業協同組合や地域の生産者グループと提携し、パリから数時間の場所で生産できるようになりました。この新しい地域密着型のサプライチェーンは、農家が土壌を再生するのを支援するだけでなく、コンパス・フランスがカーボンフットプリントを減らし、サステナブルな方法で生産された地元産の食材を全国に届ける助けとなる見通しです。

コンパスUK&Iとサプライヤーのパートナーシップ

英カンブリア州にあるコートヒル農場は、再生農業が環境と食料システムに良い影響を与えることを示しています。コートヒル農場は、NestléとFirst Milkの長年のパートナーであり、協力とコミットメントがいかに農業セクターの持続可能な変革を推進できるかを証明してきました。この農場では、炭素吸収を促進する多様な牧草を組み合わせた混合草地、生物多様性の向上と健全な農産物生産に向けた肥料・農薬の削減、カバークロップ（被覆作物）や不耕起農法による土壌の健全性向上など、さまざまな再生農業の手法が活用されています。

コートヒル農場は、さらに持続可能で強靱な食料システムの構築に貢献するとともに、環境に配慮した農法を導入したいと考えている農業関係者の模範となっています。コートヒル農場はNestlé First Milkパートナーシップに参加している80以上の農家の一つです。

森林破壊防止関連の取り組みの進捗状況

75 %

総仕入れ量に占める
サステナブルなパーム油の割合

53 %

総支出に占めるエシカル消費の
認証を取得したコーヒーの割合

◇ KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、コンパスグループPLCのウェブサイトの「サステナビリティ・パフォーマンス&報告」から抽出した特定のデータを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。詳細は40ページをご覧ください

Hectarとコンパス・フランス

コンパス・フランスはサステナブルな農業とサーキュラーエコノミーを推進するHectarプロジェクトと提携して、よりサステナブルな生産を実現するためのソリューションやツールについて、農家の意識を高める活動を展開しています。

コンパスとHectarはパートナーシップの一環として、フランスのイヴリーヌ県レヴィ＝サン＝ノムにあるHectar農場内に、低炭素型メニューを提供する試験的なレストランをオープンしました。この農場では、有機農法を用いて地元の果物や野菜、ヨーグルトを生産しています。レストランはイベントスペースの役割も果たしており、よりサステナブルな未来を実現するための社会的・経済的変化を加速する場として、再生農業に関する情報を提供し、料理の楽しさを広める活動を展開しています。

Hectarとのパートナーシップは、変化を推し進め、持続可能で責任ある食料生産を支援するというコンパスグループのコミットメントを体現するものです。

地域調達の 取り組みの進展

コンパスグループ各社は、地域調達とサステナブルな調達への継続的なコミットメントに基づいて、地域社会への支援を引き続き強化しており、これによってフードマイルの削減にも貢献しています。小規模な個人経営のサプライヤーから積極的に調達することで、地域経済の強化、透明性の向上、新鮮で質の高い食材の確保を実現しています。このアプローチは、コンパスグループのサステナビリティ目標と一致しているだけでなく、シェフと地域の農場とのつながりを深める役割も果たしています。コンパスグループが事業を展開している市場の多くでは、すでに地域調達が一般的となっており、グループ各社は事業拠点の近くにある地元の生産者、精肉店、ベーカリーなどを支えています。

パートナーシップの深化

コンパスグループのパートナーで、モバイルフードサービスを展開する米国のFood Fleetは、地域の小規模食品企業が独自の味、伝統、文化を維持しながら事業を発展させられるよう、機会の提供に取り組んでいます。こうした企業を所有・経営するのは、多くの場合、女性やマイノリティ、BIPOC（黒人、先住民族、有色人種）コミュニティ、LGBTQIA+コミュニティの人々です。

Food Fleetと、病院向けフードサービスを展開するMorrison Healthcareや、地元でとれた食材をコミュニティに提供する非営利組織Common Marketとのパートナーシップは、コンパスの米国事業が推進する地域調達の取り組みが都市部のコミュニティにも良い影響を与えていることを示しています。コンパスの米国事業は、地元の農家と医療機関をつなぐことで、地元産の新鮮な食材を多くの病院の患者やスタッフ、訪問者に届けています。

Bon Appétit Management Company のFarm to Fork (F2F) イニシアチブ

米国では、Bon Appétit Management CompanyのF2Fイニシアチブが地域調達の推進で重要な役割を果たしています。2024年で25年目を迎えるF2Fは、チームが年間食品予算の少なくとも20%をキッチンから150マイル以内にある小規模農場で生産された地元産の食材に充てることを奨励しています。

F2Fは、同社のサステナビリティに関するミッションの要であり、これまでに1,700以上の小規模事業者との間で長期的なパートナーシップが結ばれました。

F2Fプログラムのメリット

- 地域経済のエンパワーメント：小規模な独立農場から購入することで、地域経済を強化し、安定した収入源をコミュニティに提供。サプライチェーンの透明性向上や倫理的農業の促進にも寄与。
- 環境スチュワードシップ：F2Fはフードマイルを削減し持続可能な農法を支えるため、コンパスグループのカーボンフットプリントの低減に直接貢献。動物性タンパク質や、乳製品・シーフードなど年間を通じ必要な食材を地元で調達することで、環境負荷を更に最小化。
- 料理のイノベーションと柔軟性：地元でとれる旬の食材を使った斬新なメニューを考案することで、メニューの幅が広がるだけでなく、地元食材の供給状況の変化に合わせた柔軟な対応が可能に。



ガバナンス

企業としての説明責任を果たし、戦略のレビューと精緻化を進め、クライメート・トランジションの進捗状況を正しく報告するためには、グループ全体を網羅する強固なガバナンスが不可欠です。当社はサステナビリティに関するガバナンス体制を整備しており、主要なリスクと機会の管理を効果的に監督するよう取り組んでいます。

当社の企業責任委員会は、気候ネットゼロに対するコミットメントを含む、各種ポリシーや戦略の策定と実施を監督することで、主要業績評価指標（KPI）や温室効果ガス排出削減目標の進捗状況や、倫理・誠実性に関する高い基準が維持されているかどうかを確認しています。

各種ポリシーやシステム、統制および倫理的な実践により、当社はお客様、従業員、そして地球をさらに効果的に支えることができます。また当社の価値観に賛同する投資家やクライアントを惹きつけることで、ビジネスにも利益をもたらします。



倫理と誠実さ

正しい行動をとる

コンパスグループは、価値観を事業の指針としている企業であり、その中心には従業員がいます。当社は、従業員が声を上げられる職場、自分の意見が聴いてもらえると実感できる職場づくりを推進しています。このような環境を構築する上で、当社は従業員に対して常に正しい行動をとるよう奨励して、率直さ、信頼、誠実さの文化を育み続けています。

当社の目標は、従業員とビジネスパートナーが誠実さを指針として意思決定を下せるようにすることです。当社は企業行動規範（CBC）、人権ポリシー、グローバルサプライヤー行動規範（SCOC）、およびビジネス・インテグリティ・ポリシー（BIP）の継続的な実践を通して、従業員、パートナー、ステークホルダーの権利尊重に取り組んでいます。

当社の企業行動規範と各種ポリシーは、国際的に認められた宣言や基準、原則に基づいており、以下はその例です。

- 国連世界人権宣言
- 国際労働機関（ILO）の基本条約とエシカル・トレーディング・イニシアチブ（ETI）のベースコード
- OECD多国籍企業行動指針
- 労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言
- 国際人権章典
- 国連ビジネスと人権に関する指導原則
- 国連グローバル・コンパクトの10原則

企業行動規範と各種ポリシーは、コンパスグループ各社のすべての従業員に全世界で適用されます。

企業行動規範は、原則、価値観、企業としてのコミットメントに基づく、包括的な枠組みであり、「すべきこと」と「してはならないこと」を明確に示すとともに、詳細情報の参照先や相談先を案内しています。企業行動規範は、コンパスグループ各社で使われている主要な言語で提供されています。

従業員、パートナー、投資家との相互信頼がなければ、事業を継続的に発展させることはできません。こうした信頼関係を築くためには、従業員一人ひとりが組織の一員として責任ある行動をとることが不可欠です。サプライヤーもまた、当社の企業行動規範の基準と原則に加えて、当社のグローバルサプライヤー行動規範を遵守することを求められます。

ビジネス・インテグリティ・ポリシーの戦略的目的は、ビジネスの誠実さに関わる重大なリスクを防止・軽減すること、そして規制要件を遵守することです。ビジネス・インテグリティ・ポリシーや倫理・誠実性（E&I）に関する研修は、従業員が直面する可能性のある倫理的なジレンマに対する意識を喚起することで、従業員がリスクの兆候を見極め、適切に対応するための指針を提供しています。

当社のビジネス・インテグリティ・ポリシーは、倫理・誠実性（E&I）の精神と主要な統制策を引き続き定着させモニタリングする枠組みを、さらに強化するためのものです。2024年には各国語で書かれた国別ビジネス・インテグリティ・ポリシーを策定し、当社が事業を展開しているすべての市場において、現地で承認された開示基準（贈答・接待、利益相反、寄付、スポンサーシップ、地域社会への投資について）を定めました。

誠実さを重視した意思決定は、E&Iの啓発キャンペーンや定期的な研修を通じて推奨・促進しています。当社ではリーダー主導のコミュニケーションとキャンペーンを通じ、何かがおかしいと感じた時に従業員が声を上げられる文化の醸成と定着に取り組んでいます。

当社は、ピープル部門（人権を含む）やサステナビリティ、サプライチェーン、グループ倫理・誠実性チームの専門家と連携し、グローバルなサプライチェーンリスク管理（SCRM）の枠組みを構築し引き続き定着させることで、第三者倫理審査プロセス（TPIDD）の強化に取り組みました。このプロセスは、当社の第三者リスク評価の基盤であり、グループ企業がサプライヤーの倫理的な適合性を継続的に評価する助けとなっています。2024年には、すべての主要市場とその他の市場の大部分に第三者倫理審査プロセスの要件を導入しました。

詳細は2024年度年次報告書の「倫理と誠実さ」のページや、当社ウェブサイトに掲載している現代奴隷法に関する声明をご覧ください。
www.compass-group.com

当社ではリーダー主導のコミュニケーションと社内キャンペーンを通じて、何かがおかしいと感じた時に従業員が声を上げられる文化の醸成と定着に取り組んでいます

2024年のハイライト



1万7,000人以上

倫理と誠実さの原則とリスク領域に関する研修を受講した全世界の従業員数



90% (2023: 89%)

おかしいと感じる状況を目撃した場合は声を上げると回答した受講者の割合*



88% (2023: 85%)

職場では誠実さを重視した意思決定がなされていると回答した受講者の割合*



10万人以上

2024年にグループ全体で実施されたE&I啓発週間に参加した従業員の数



8,600人

世界全体でE&Iアンバサダーに選ばれた従業員の数



6,900

第三者倫理審査の対象となったサプライヤー、人材紹介会社、流通業者の数

* 2024年度研修の回答に基づく（UK&Iを除く全地域）

SPEAK UP!

We're listening

いつでも安心して声を上げられる環境の整備

当社は、何かがおかしいと感じたときに従業員が安心して声を上げられる、インクルーシブな環境の整備に取り組んでいます。誰かが声を上げたときに、その声に耳を傾け、必要な対応をとり、正しい行いを実践することは、当社すべての従業員の義務であり責任です。詳細は以下をご覧ください。

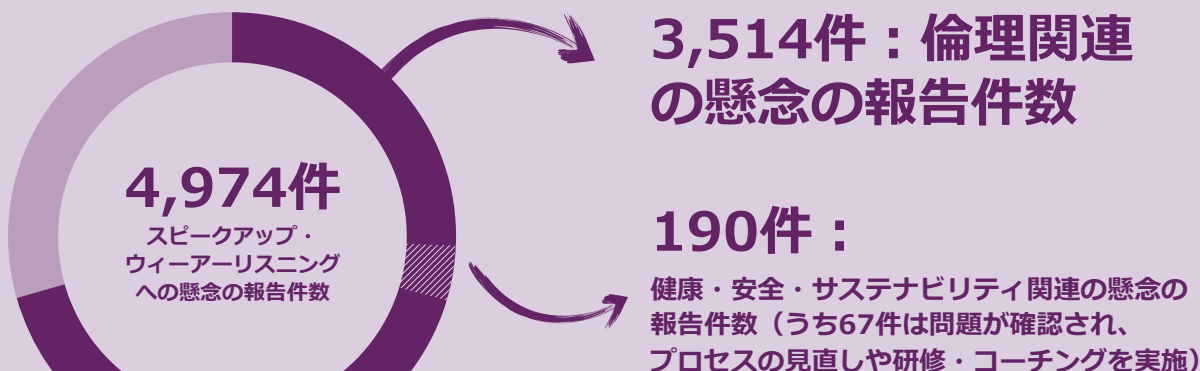
www.compass-group.com/speak-up.

スピークアップ・ウィーアーリスニングは、秘密遵守の報告制度です。この制度は当社が事業を展開するすべての国で導入されており、報告者が希望する言語で24時間365日、QRコードやウェブサイト、または電話を使ってアクセスできます。この制度はコンパスグループの倫理・誠実性部門が管理しています。この部門は、どの事業部門からも独立しており、誰もが不正行為に対する懸念や申し立てを提起しやすい体制をとっています。

従業員、サプライヤー、お客様、地域社会など、コンパスのビジネスに関わるすべての人が、報復を恐れることなく、不正と思われる行為やその他の不適切な状況や行動（コンパスグループの価値観、企業行動規範、グローバルサプライヤー行動規範、ビジネス・インTEGRITY・ポリシーに反する行為を含む）を報告できます。内容は、健康、安全・環境、ハラスメント、人権、贈収賄・汚職、反競争的行動、窃盗・詐欺、財務またはその他の不正報告、事業の誠実性全般に関する問題など、あらゆる分野の懸念を含みます。

各案件は、専任の担当者が評価、フォローアップ、必要な場合は調査を実施し、進捗状況は企業責任委員会（CR）および各地域のガバナンス委員会へ定期的に報告されます。

2024年には、4,974件の懸念がスピークアップ・ウィーアーリスニングに報告されました（2023年は4,130件）。



190件の上位4分類

職場の安全

品質管理

薬物濫用

健康とウェルビーイング



事業とサプライチェーンにおける人権の尊重

従業員、サプライチェーンの労働者、そして事業拠点のある地域社会の人々の人権を尊重することは、コンパスグループが最も重視する原則の一つです。このコミットメントは、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DE&I）から職場の安全、責任ある調達、思いやりと成功を大切にする企業文化の醸成まで、あらゆる面で当社のアプローチに影響を与えています。こうした活動を通じて、当社はすべての人の幸福と尊厳に重点を置いた、公正で敬意ある職場環境の構築を目指しています。

当社の人権ポリシーは、すべての人はアイデンティティや場所を問わず、基本的人権と自由を享受できるべきだという信念の土台となり、基本的な原則を推進するものです。このポリシーは、ILO条約をはじめとする国際基準とも整合しており、結社の自由、団体交渉権、強制労働・児童労働の禁止、職場での差別の解消などの重要なテーマも扱っています。また、女性や子ども、LGBTQIA+の人々、難民、移民労働者、国内のマイノリティ、先住民といった、脆弱な立場にある人々にも注意を払っています。

当社はこの1年間で人権リスクに関する理解を深め、各種ポリシーやプロセス、研修を強化することで、幅広い事業分野で上記の人権リスクへの対応に取り組みました。

こうした目標を推進する上で、中心的な役割を果たしているのが人権ワーキンググループ（HRWG）です。HRWGには、コンパスが事業を展開するすべての地域の代表者が参加しており、ベストプラクティスの共有、協調的な取り組み、現代奴隷を含む人権問題に対する意識向上を促進するグローバルな場となっています。HRWGは、協調的な議論、研修、実際の事例を通じて、戦略、方針、ツールを各地域に展開することにより、グループ全体での責任の共有を促進しています。

現代奴隷制に対する取り組み

コンパスグループは世界規模で事業を展開する企業として、強制労働、人身取引、その他の搾取に関するリスクへ適切に対応する責任があります。当社が展開している主な施策は次の通りです。

- **パートナーシップ**：Earthworm FoundationおよびSlave Free Allianceと連携
- **国別SCRMフレームワーク**：サプライチェーンリスク管理の最低基準を設定
- **SEDEX**：主要市場を含む17か国に展開
- **人権研修**：1万7000人を超えるコンパスのリーダーと従業員¹が人権研修2024（Doing What's Right）プログラムを完了
- **第三者倫理審査（TPIDD）**：サードパーティの倫理的適合性をチームが評価し、レビューする仕組みを導入

環境以外のサステナビリティ

コンパスにとって、サステナビリティとは単に環境負荷を軽減することだけではなく、当社の事業やサプライチェーン全体において人々を公正に扱い、ウェルビーイングを実現することも含みます。このコミットメントは国連の持続可能な開発目標（SDGs）の中でも、特に社会的公正、働きがいのある仕事、不平等の削減に関する目標と一致しています。

当社は人権の尊重、環境に対する責任、倫理的なサプライチェーン管理を統合することで、持続可能な未来の実現に取り組んでいます。人権と環境スチュワードシップの両方に重点を置くことで、長期的な成功の基盤を強化し、デューデリジェンスの強化、サプライチェーンパートナーとの協力、人権教育等を通じて、人間と地球が繁栄できる未来の構築に努めています。



当社の人権ポリシーと現代奴隷法に関する声明については、以下をご参照ください。

<https://www.compass-group.com/en/index.html>

1. 職務上、人権リスクとの関わりが深い者が参加。人数は2024年9月30日時点のグループの内部研修記録に基づく。

持続可能な未来を パートナーと共に

コンパスグループは、戦略的なパートナーシップによって、さらに力強い組織となれます。

最大のインパクトを生み出すために、
当社は主要な業界団体、NGO、政府機関、
その他の国際組織と協力し、食品が社会や環境に
与える影響に取り組んでいます。



持続可能なパーム油に
関する円卓会議のメンバー



北米事業で、食品廃棄の撲滅
に取り組む米国の非営利団体
ReFEDと提携



世界の企業や組織で女性の役員
や経営幹部の比率を高める
ことで、ジェンダー平等の実現
を目指す30%クラブを支援



コンパッションインワールド
ファーマーミング (CIWF) と
緊密に連携し、研修、業界
活動、アドボカシーなどを展開



ビジネスリーダーシップと機会
の創出を通じて、障がい者の
インクルージョンの大幅な
進展を支援



世界動物福祉連合
(GCAW) の創設メンバー



2004年に国連グローバル・
コンパクトに署名



持続可能な開発のための
世界経済人会議のメンバー
2021年に「ビジョン2050：
大変革の時」に署名



2017年にFoodtankとの
パートナーシップを開始



地球とその資源を守るための
変革に取り組むNPO、EAT
フォーラムのパートナーとして
活発な活動を継続



責任ある大豆に関する
円卓会議のメンバー



世界水産物持続可能性
イニシアチブのパートナー



2021年6月にSlave-
Free Allianceに加盟



2022年9月に国際食料廃棄連合
(IFWC) に加入。グローバル
サステナビリティディレクターが
理事会に参加するなど、食品廃棄
に対する取り組みを強化

サステナビリティボンドに関する報告



配分状況に関する報告

コンパスグループPLCは、2022年7月に持続可能な金融フレームワーク（以下「フレームワーク」）を策定しました。フレームワークは、カーボントラストによるセカンド・パーティー・オピニオン・レビューを受けています。詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

フレームワークでは、調達した資金の配分先となるサステナブル・プロジェクトを定義しています。これらのプロジェクトは、コンパスグループがサステナビリティの取り組みを進め、気候ネットゼロ目標を世界レベルで達成するために活用されてきたり、または活用される予定です。

コンパスグループはフレームワークに関する取り組みを継続しており、2023～24年度には新たに2つのサステナビリティボンドを発行しました。両ボンドが調達した資金はポートフォリオベースで管理されています。これまでの調達資金の配分状況については以下をご覧ください。



サステナビリティボンドの発行状況詳細1

証券コード (ISIN)	発行日	発行体	償還日	利率	発行額 100万 米ドル)	配分割合
XS2528582450	2022-09-08	Compass Group PLC	2032-09-08	4.375%	317	100%
XS2528582377	2022-09-08	Compass Group Finance Netherlands B.V.	2030-03-08	3.000%	547	100%
XS2758114321	2024-02-06	Compass Group PLC	2031-02-06	3.250%	849	100%
XS2895051212	2024-09-16	Compass Group PLC	2033-09-16	3.250%	556	62%
サステナビリティボンド総発行額					2,269	

1. 表中のサステナビリティボンドはユーロまたは英ポンド建てで発行されました。コンパスグループPLCの2024年度年次報告書には、米ドル換算額を掲載しています。

調達資金の使途

2024年9月30日までに、コンパスグループは総額23億ドルのサステナビリティボンドを発行しました。当該ボンドの発行を通じて調達した資金のうち、21億ドルはすでに配分済みです（右図参照）。詳細な配分内容については付録1をご参照ください。調達資金のうち、未配分残高については今後、フレームワークに沿って配分状況を報告する予定です。

サステナビリティボンドの調達資金は以下のカテゴリーに配分されました。

分類	概要	該当するSDGs
 生物天然資源と土地利用の 環境的に持続可能な管理	調達資金は、倫理的に取引された認証取得済みのコーヒー・紅茶、ケージフリー（平飼い）液卵、認証取得済みのサステナブルシーフードに関する支出に充当されます。この資金は、食品の安全性と品質、事業の誠実性、倫理的な取引、人権の保護、農場におけるアニマルウェルフェア、サステナビリティの面で、当社が定める高い基準を満たしたサプライヤーと協力する、という当社目標の達成に貢献しています。	 
 汚染防止・管理	調達資金は、植物性のメニューで肉の代替として使用される、植物由来の商品や原料を購入する資金に充当されます。この資金は、植物由来のメニュー増加への需要を満たすのに役立っています。植物由来のタンパク質は肉よりもカーボンフットプリントがはるかに少ないため、環境に優しいメニューです。	
 社会経済的な発展と エンパワーメント	調達資金は、マイノリティや女性が所有・経営する企業や、Bコーポレーションに分類されるサプライヤーが提供する製品の購入に充当されます。この資金は、倫理的でサステナブルなサプライチェーンの構築という目標を当社が達成する助けとなっています。	

インパクト

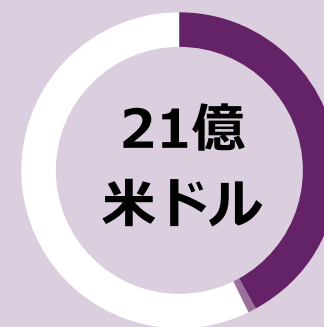
当社のサステナビリティ戦略は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）のうち、当社が特に大きな影響を与えられる9つの目標への貢献に焦点を合わせています（詳細は本レポートの4ページを参照）。サステナビリティボンドの調達資金は、このうち4つの目標に関連したカテゴリーに充当されました。

コンパスグループは、自然と生物多様性の保全に継続的に取り組んでいます。コンパスグループ各社は、サプライチェーンのパートナーと共に、地球や地域社会に良い影響を与えることを目指しています。

環境負荷の軽減や責任ある調達など、サステナビリティの主要なテーマを扱った研修やワークショップも実施しました。詳細は本レポートの「サステナブルな調達」セクション（26～31ページ）をご覧ください。倫理的に取引されたコーヒー、サステナブル・シーフードの詳細については、当社ウェブサイトをご覧ください。

www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports

2022年以降、23億ドルのサステナビリティボンドを発行



分類	配分状況	配分額 (単位100万米ドル)
■	生物天然資源と土地利用の環境的に持続可能な管理	\$892m
■	汚染防止・管理	\$20m
■	社会経済的な発展とエンパワーメント	\$1,208m

コンパスグループはダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）をグループ全体で推進しており、グループ各社の調達チームがサプライチェーン全体でサプライヤーへの支援を改善するための枠組みを整備しています。

この枠組みやその他の取り組みについては、本レポートの23ページをご覧ください。

付録 1 :

当社の独立監査法人であるKPMG LLP（以下KPMG）は、保証基準ISAE（UK）3000を使用して、下表の△で示す特定の情報について限定的な保証を行いました。当社ウェブサイトでは、KPMGの限定的保証報告書の全文を公開しておりますので、ご参照ください。www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

生物天然資源と土地利用ポートフォリオ	締結金額1	プロジェクトに占める割合2	サステナビリティ ボンド対象の割合	生物天然資源と 土地利用の割合	充当額3	充当期間	平均支出期間
					\$439m	10月 19日-9月22日	
					\$249m	10月 19日-9月23日	
					△ \$204m	10月 19日-9月24日	
サステナブル、フェアトレード、 オーガニック、アニマルウェルフェ ア基準の認証を受けた商品への支出	\$2,269m	100%	100%	42%	\$892m		N/A (Opex)

汚染防止・管理ポートフォリオ	締結金額1	プロジェクトに占める割合2	サステナビリティ ボンド対象の割合	汚染防止・管理 ポートフォリオ	充当額3	充当期間	平均支出期間
					\$20m	10月 19日-9月22日	
					\$0m	10月 19日-9月23日	
					\$0m	10月 19日-9月24日	
廃棄物削減関連プロジェクト への支出	\$2,269m	100%	100%	1%	\$20m		N/A (Opex)

社会経済的な発展とエンパワメント	締結金額1	プロジェクトに占める割合2	サステナビリティ ボンド対象の割合	社会経済的な発展と エンパワメント	充当額3	充当期間	平均支出期間
					\$0m	10月 19日-9月22日	
					\$216m	10月 22日-9月23日	
					△ \$992m	10月 23日-9月24日	
マイノリティや女性が所有・経営する サプライヤーやBコーポレーションなど、 地元で多様性の高いサプライヤーから 購入した製品への支出	\$2,269m	100%	100%	57%	\$1,208m		N/A (Opex)

付録2:

重要事項：フレームワークの21ページ「免責事項」をご参照ください。www.compass-group.com/sustainable-financing

フレームワークおよびその内容（情報、意見、将来の見通しに関する記述）は、サステナビリティボンドの配分に関する本報告にも適用されます。

1. 締結金額は、サステナビリティボンドの融資対象となるプロジェクト、プロジェクトのポートフォリオまたはその一部に対して、発行者が法的にコミットした金額を表します。
2. プロジェクトに占める割合は、プロジェクトの総コストのうち、発行者が提供する資金が占める割合を指します。
3. 過去の充当額は、発行済みサステナビリティボンドの換算レートに合わせて、年度末の終値を用いて英ポンドから米ドルに換算したものです。

当社グループの親会社であるコンパスグループPLCは、事業活動を行わない投資持株会社であり、子会社からの配当金を分配可能準備金の源泉としています。

当社の報告は、グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）およびサステナビリティ会計基準審議会（SASB）の基準に準拠しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。
www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports.

独立第三者保証

KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000およびISAE3410に基づき、当社の2024年のサステナビリティ関連報告に含まれる特定のESGデータポイントを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。（+）マークを付したデータポイントはコンパスグループPLCの2024年度年次報告書に対する保証、（Δ）マークを付したデータポイントはコンパスグループPLCのサステナビリティボンドの配分報告に対する保証の一部です。（◇）マークを付したデータポイントはコンパスグループのウェブサイトの「Sustainability Performance & Reports（サステナビリティ・パフォーマンス&報告）」から抽出したものです。KPMG LLPの限定的保証意見とコンパスの報告手法はコンパスグループPLCのウェブサイトに掲載しています。

www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports.

Compass Group PLC
Compass House
Guildford Street
Chertsey
Surrey KT16 9BQ
United Kingdom

イングランドおよびウェールズにて登録済み
登録番号4083914

2024年1月23日

sustainability@compass-group.com
T +44 1932 573 000



Carbon Neutral© Publication Certificate

本証明は以下の事項を証明するものです。

記載された主体は「カーボンニュートラル・プロトコル」に基づき、質の高い環境手段を用いてカーボンニュートラルを達成している。

すべてのクレジットは国際カーボン削減・オフセット同盟（ICROA）が承認する基準に準拠している。

認証：CarbonNeutral® publication

期間：2024年1月1日～2024年12月31日

組織名：Compass Group PLC

環境証書による相殺量：1 tCO₂e

タイトル：Compass Group PLC Sustainability Report 2024

プロジェクト情報：Kulera REDD+ and Cookstoves, Malawi, VCS+CCB

認証番号：CN20240712719

The time for action is now.

As a **purpose-**
driven partner,

Compass is creating a seat at the table
with stakeholders, **driving**

progress to
net zero

and helping clients achieve their
environmental and social goals.

今こそ行動を起こす時です。

コンパスグループは、**パーパスを持つパートナー**として、ステークホルダーらと共に持続可能な未来を築き、
ネットゼロ目標に向けた**歩みを前進**させ、クライアントの環境・社会目標達成を支援します。

